

# ひとり親家庭の特別医療費受給資格証更新手続きについて

ひとり親家庭の特別医療費受給資格証をお持ちの人は、有効期限が6月30日となっていますので、早めに更新手続きをしてください。また、現在受給資格証を持っていない人でも、以下の要件をすべて満たす人は対象となる場合がありますので、お問い合わせください。

▼特別医療費受給資格証  
(紙は水色)



## 受給資格要件 (次の2つの要件を満たす人)

1. ひとり親家庭で、18歳に達する年度末までの子(平成11年4月2日以降生まれの子)を扶養している人
2. 世帯全員が平成28年分所得税非課税の人  
(16歳未満の扶養親族がいる場合は、扶養控除があると仮計算した結果で判定)

## 申請(更新)に必要なもの

- ①健康保険証 ②印鑑(認印) ③特別医療費受給資格証(持っている人のみ)
- ④前住所地が発行する平成29年度(平成28年中)所得課税証明書(所得と控除の内訳が分かるもの)  
※平成29年1月2日以降に伯耆町に転入した人のみ

## 申請(更新)窓口

本庁舎：健康対策課 健康増進室 分庁舎：分庁総合窓口課

問い合わせ先 健康対策課 健康増進室 TEL:0859-68-5536



## 上記要件に該当しなかった人へ

上記に該当しないひとり親家庭の人で、児童扶養手当の所得制限未満の人は、伯耆町医療費助成制度に該当する場合がありますので、お問い合わせください。

# ALT通信 VOL.65

このコーナーは、ALT(外国語指導助手)によるエッセイを、英語と日本語で紹介します。

I decided to camp every single day of my trip to Nagasaki-ken. On my first day in Nagasaki City I had seen a small park where children had been playing and I decided to set up my tent there. It was late but I was frightened. Trapped inside my small tent, every sound of the outside world takes on a monumental impact. Breath is like a heavy gale, a bike tire screeches like an explosion.

Afterward I went to Unzen. I climbed a mountain. Night fell. I set up my tent in the mountains.

I woke around 3AM. Two inoshishi pressed their snouts on the narrow walls of my tent and searched it. I lay silent, not breathing. After ten long minutes of sniffing every inch of my tent and growling, they left.

Every night I was in my tent, awake to the world and hearing sounds I'd forgotten. I heard the whispers of cold wind in the grass, I heard the unfolding song of the birds in call and counterpoint to each other; I heard the tremor of my heart steadily beating blood. When I came back — what part of the journey remained? It was that. The recognition of life and air. The weight of breath in the lungs. The belief in a soul between the bones.

Fear reintroduced me to myself.

Peter

今回の長崎旅行では、毎晩キャンプをして生活しようと決意しました。長崎市に行った最初の日には子どもたちが遊んでいた小さな公園にテントを設置しようと決めました。小さなテントの中にじっとしていると、外の世界のすべての音が重々しく感じてきました。激しい突風のような音、バイクからは爆発したときのような激しい音が聞こえてきます。一晩中、騒音があったため、ほとんど寝ることができませんでした。

そのあとは、雲仙市に行きました。ほくは雲仙市にある山にのぼりました。夜が来たので、この日はその山にテントを張りました。

ほくは3時ごろに目が覚めました。2匹のイノシシが突き出た鼻で、テントの薄いかべにむけて突進してきました。ほくは息をせず、静かに横たわっていました。約10分間、かれらはほくのテントの隅々までにおいをかぎ、そしてうなり声をあげてかれらは去って行きました。

毎晩ほくはテントで過ごし、聞こえてくる音で朝目覚めました。ほくはこの体験を忘れることができません。野原から聞こえる、風のつめたくてささやくような音、鳥たちがお互いを呼び合っているような歌声、自分の心臓がきちんと鼓動している音を毎日感じました。

ほくが今回の旅行からどんなことを感じたかという……「生命」と「空気」の再認識です。自分の肺に取り入れる「空気」の重量、自分の体の中にある魂の認識。

自然に対する畏れや畏敬の念が、自分というものをもう一度考える経験を与えてくれました。

ピーター



鮎津神社前  
キャンプ



イノシシが  
来た!